

平成18年度森林総合研究所四国支所研究評議会報告

外部の有識者から四国支所の研究活動や業務運営に関して意見をいただき、今後の活動に反映させていくために開催しているものです。

日時：平成19年3月13日（火） 13：00～16：00
場所：森林総合研究所四国支所 会議室

1. 評議会委員及びオブザーバー（敬称略）

評議会委員

大西 庸子	木庸社代表
塚本 次郎	高知大学農学部助教授
本多 照昌	前愛媛県林業経営者協会会長

オブザーバー

多田 弘之	四国森林管理局計画部 指導普及課長
小味 章秀	高知県立森林技術センター 所長

2. 議事次第

- 1) 開会挨拶
- 2) 出席者紹介
- 3) 支所説明
 - (1) 概要説明
 - (2) 研究の実施状況と成果
- 4) 業務運営及び地域ニーズに関する意見交換
- 5) 講評
- 6) 取りまとめ（支所長）
- 7) 閉会

3. 委員及びオブザーバーの意見・指摘事項と対応方針

項目	指 摘 事 項	対 応 方 針
研究推進について	・森林総研全体のミッション（使命）については十分理解できたが、地域の林業、森林を担う支所にも地域独自のミッションがあるはずである。 ・現在産業界では物流によって産業界の形が変わると言われている。林業において木材の物流（川上から川下へ大量の木材を経済的かつ安定して流す技術）は重要な要件であるにも関わらず、物流の研究は希薄である。 ・現在の厳しい林業事情から「針葉樹人工林の広葉樹林化、混交林化」や「低コスト粗材生産	・今後四国地方の地域特性に立脚した支所のミッションを明確にしたい。 ・物流研究は支所だけでは難しいので、本所の協力の下で、どのような研究が可能か検討して行きたい。 ・広葉樹林化の問題は来年度からの大型プロジェクトの中で取り組む予定である。低コスト林業については管理局との協力の中

	技術」、「芯持ち材の低コスト育林技術」などの研究が要請されており、鋭意取り組んでいきたい。	で研究の可能性を探りたい。
研究 成果 の 活 用 ・ 普 及 に つ い て	・ 昨年は林業関係者向けの研究発表会や一般市民を対象としたミニ講演会などで研究成果を発表しているが、今後さらに多くの成果を情報発信し、支所の存在を広く知らしめるように努力していただきたい。 ・ 学会などで研究成果を発表しているが、一般の人たちに分かりやすく研究内容を伝達していくことが、市民の森林、自然に対する理解を深めるために大切である。	・ ホームページ、広報誌、セミナー、一般公開などを通じ、なお一層の研究成果の普及に努力する。 ・ 一般公開やホームページなどで、できるだけ分かりやすく、成果を普及して行きたい。
地 域 連 携 に つ い て	・ 支所と四国森林管理局等はシカ被害問題や天然更新施業技術などの多くの課題で共同研究している。ふれあいセンターと技術センターでは自然再生、鳥獣害対策、多様な森づくりなどに取り組んでいる。今後とも連携と協力をお願いしたい。 ・ 現場の抱えている問題の発掘や試験地の効率的な設定などのために、県との協力関係を強化する必要があると考える。	・ 様々な研究分野で国有林を利用させていただいている。今後とも御支援、御協力をお願いする。 ・ 県の行政部局や森林技術センターとさらに協力関係を深めていきたい。